

第3章

人材の確保と質の向上

3-1 人材育成研修等の充実

3-1 人材育成研修等の充実

【現 状】

- 少子高齢化の進展に伴い、保健・医療・福祉・介護などのサービスの増大と多様化は、今後もさらに進むと予測されています。社会の変化に伴う新たな健康課題や多様化・高度化する住民のニーズに対応するため、専門職には、より高度な専門性の発揮が求められています。
- 在宅療養の需要は高齢化の進展や医療技術の高度化に伴い今後も増加していくと予想されます。そのため、誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるように在宅療養の担い手の確保、育成に向けた取組を充実させる必要があります。
- 保健・医療等に係る職種が、住民に安定したサービスを提供していくためには、最新の知識を習得し、自己研鑽・相互研鑽しながら資質の向上を図っていくことが重要です。
- また、新興感染症の流行や災害の発生などの有事における要支援者支援体制の確保に向け、保健・医療等関係者の多職種による情報共有と連携がより一層重要となっています。このような有事の際には、職種を問わず連携して対応にあたることが必要です。その際に円滑な連携を行うためには、平時より、専門職だけでなく関係者を含めた研修を実施し、情報共有や役割を明確にすることが重要となります。
- 都保健所は、保健・医療等に携わる圏域の人材育成と質の向上を図るため、南多摩保健医療圏の各市及び関係機関の要望を踏まえ、市や施設単位では実施困難な専門職種の人材育成研修を体系的に実施しています。

【令和5年度南多摩保健医療圏人材育成研修実施状況】

項目	対 象	内 容
保健師	市、保健所の1～2年目保健師	・個別支援におけるアセスメント ・グループディスカッション
栄養士	給食施設の管理栄養士、栄養士、調理師、調理従事者等、各市の行政栄養士、地域活動栄養士等	・行事食や器の配食、色と食の心理効果等について
食育	食育に関わる栄養士、関係者等	・アフターコロナの食育～黙食の秘めた可能性～
歯科衛生士	市の歯科保健担当者	・災害時の歯科保健医療
政策トピックス	市、保健所職員等	・被災地における支援活動について ・避難所運営ゲーム（HUG ゲーム）

- このほか、保健所では、広く事業者、関係機関、住民等を対象に講演会などを開催し、保健衛生に関する理解を広めています。

- 市は、在宅療養に関わる様々な職種が、連携・協働して医療・介護を必要とする方を支援できるようにするため、地区医師会等関係団体と連携し、医療職、介護職が相互に知識・理解を深めるための多職種によるグループワーク等の研修を実施しています。
- また、保健所では、平成12年度から南多摩保健医療圏の保健・医療等関係者を対象とした「地域保健医療福祉フォーラム」を開催しています。このフォーラムは、各機関の取組事例等の発表を通して、保健医療従事者及び福祉・介護従事者間の連携と相互研鑽の場として活用しています。

【令和5年度 第24回地域保健医療福祉フォーラム実施状況】

対象	日時	場所	参加人数	内容
南多摩保健医療圏の保健・医療・福祉関係者	1月15日	東京たま未来メッセ(東京都立多摩産業交流センター)	75名	演題発表 (口頭発表10題) テーマ ・地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステム構築への取組 ・地域における予防活動の取組(健康づくり・介護予防・虐待予防等) ・地域保健医療推進プランに掲げる様々な取組

- 令和2年からの新型コロナウイルス感染症の流行により、当初は多くの実地研修・講習会が中止となりましたが、デジタル技術を活用したオンライン研修等が導入され、場所にとらわれることなく多くの人が研修や講習会に参加できるようになりました。

【課題】

- 保健・医療等に携わる専門職及び関係者の質の向上
- 多職種連携による地域包括ケア体制を支える人材の育成

【今後の取組】

1 保健医療等従事者向け研修の充実

都保健所は、南多摩保健医療圏の様々な職種がその専門性を高められるような効果的な研修を継続的に実施します。

2 在宅療養を支える人材育成の充実

市は、これまでの人材育成のための研修の実施状況を評価し、地区医師会等関係団体との連携のもと、医療・介護関係者の研修をさらに充実させます。

【重点プラン】

- 1 保健医療等従事者向け研修の充実

【指 標】

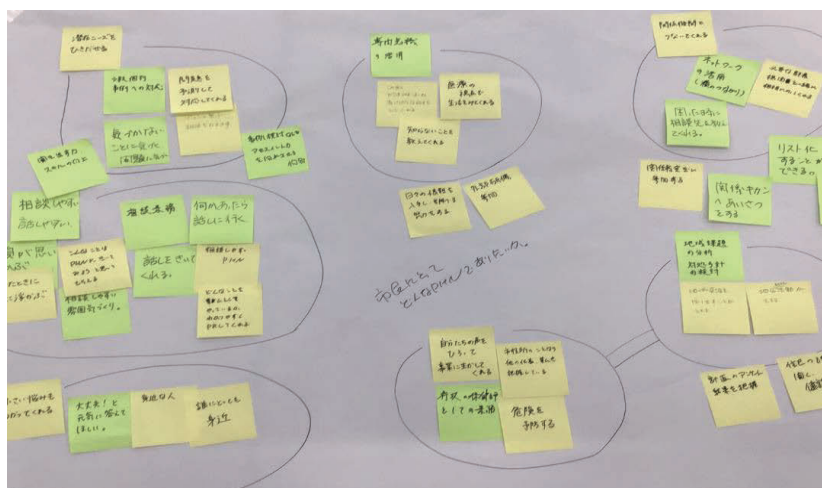
保健・医療等関係者への研修 ⇒ 充実する

コラム

人材育成研修等の充実

稲城市では13人の保健師が在職しています。配置は分散型で、一人配置や経験年数など偏りがあり、「一人配置でも保健師能力を向上することができ、自ら課題に気付いて取り組めるような保健師人材育成指針が欲しい」との声が上がったことを契機として、市人事担当部署と調整を図り、職員研修として「稲城市保健師人材育成プログラム」を作成しました。

保健師は積極的に市民へ寄り添う一方で、これまで職場の異なる保健師同士が寄り添いコミュニケーションをとる機会がなく、市保健師職員における先輩・後輩での人材育成に対する考え方に統一が図れておりませんでした。市の保健師として一貫性を持ち、専門能力を向上することができるような仕組みづくりをすることが重要だと考えました。



人材育成は、個々の保健師の「育ちたい」という意思が基盤となりますが、後輩は先輩を見ながら、先輩は後輩を育てながらと、互いに育ちあう環境の中で成長していくと考えます。そこで、プログラムを作成するにあたり、1～2か月に1度集まり、普段とは違う部署で働く仲間と顔を見て話をするなど、職員同士の繋がりをより大切に意識していくことで、さらに絆が深まったと実感しています。作成に当たっては、南多摩保健所の保健師の方々のご協力をいただきました。

今後は、保健師として従事した経験年数に応じた目標の達成状況や課題を確認し、求められる能力を段階的かつ計画的に習得するためや、人事考課の目標の明確化に人材育成プログラムを活用していきます。

こんな役割を発揮できる保健師を目指します

「市民につつまれ、市民をつつむ保健師」
～地域の自助互助を支え多職種他分野協働で
市民が暮らしやすい健康なまちづくりを目指して～



市民に寄り添い、相談してよかったと思われる保健師を目指します。

公衆衛生的な視点をもって地域の健康課題を把握し、予防的介入をすることで健康を守ります。

一人一人の持っている力を引き出し、地域資源を活用して、より健康になることを支援します。